

専齋 SENSAI



Happy Holidays! 今年は屋外イルミネーションもきれいです。

診療科紹介

Vol.23 神経内科

TOPICS

- ・第72回国立病院総合医学会
- ・剖検等御協力者慰霊祭
- ・長崎大学形成外科難波賞を受賞して
- ・平成30年度九州・沖縄ブロックDMAT実動訓練に参加して
- ・国際医療ボランティア報告
～ミャンマーでJapan Heartに参加して～
- ・ソフトボール大会に参加して
- ・平成30年度長崎医療センター忘年会
- ・新任医師紹介

医療雑感

看護部だより Vol.7

第12回長崎医療センター
“健康フェスタ”予告

行事予定

地域医療連携室からのお知らせ

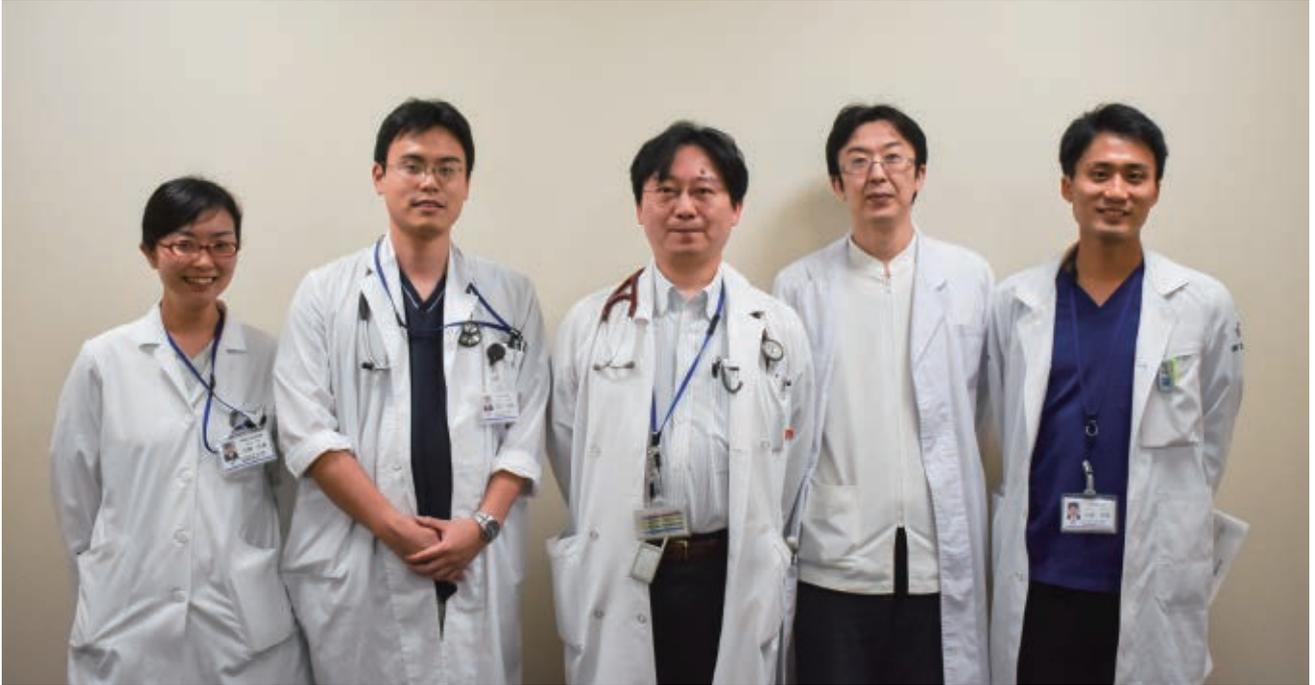
SENSAI ごはん

長與 専齋 (1838年～1902年)

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめ採用したのも専齋である。専齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

診療科紹介 Vol.23

神経内科



当院の神経内科について

当院の神経内科は、病棟患者の約6割が脳梗塞を中心とした脳卒中に対する加療目的で入院されています。脳卒中は近年、日本人の死因の3位となる疾患であり患者数も多く、同疾患に対応することは地域中核病院の責務と言えます。

この為、当院では脳神経外科、救急科と神経内科が連携を密にしており、神経内科医の少なくとも1人は24時間365日体制で病院の近くに常駐するようにしています。

脳卒中は発症から治療までの期間が短いほど、治療効果や予後が良く、時間との戦いとも言えます。当院の救急科と県央の救急隊との連携は特に強く脳卒中発生後の当院での対応の速さは近年大きく改善しております。

更に、離島で発症した脳卒中に関しても、病院間の画像転送システムを利用した遠隔診療で、ヘリ搬

送される前に治療が開始出来る例も多くなっており、こちらでも大きな治療効率の改善が得られています。

離島との連携に関しては、現在当科に所属している大塚寛朗医師が離島勤務の際に努力して築き上げたものです。2019年度に再び離島に戻られるのは名残惜しいのですが、今後の活躍を期待しているところであります。このように多くの人々に支えられて当科は日々診療を行っています。大変ありがたいことです。

この文章は一般の方々も読まれると伺っていますが、**脳卒中の目安として、突然発症で、1. 片側の顔がゆがむ、2. 片側の腕が上がらない、3. 喋りにくい、**この3つ症状のうち1つでもあれば7割ほどの確率で脳卒中であると言われております。このような症状が起きた場合は、様子を見ることなく速やかに救急車を呼んでください。

当科ではその他の神経内科疾患ももちろん扱っております。パーキンソン病や、多発性硬化症、ギランバレー症候群、各種認知症、などお役に立てることがありましたらご遠慮なくご紹介ください。



高度救命救急センターに設置されている画像伝送システム

疾患名	症例数
脳卒中関連	197
てんかん	37
慢性炎症性脱髄性多発根神経炎	21
重症筋無力症	13
筋委縮性側索硬化症	8
視神経脊髄炎	6
パーキンソン病	5
その他	57

2017年の入院症例数

対象疾患、診療内容

1. 脳血管障害

急性期脳梗塞を中心に診療しています。適応症例に対しては、t-PAによる血栓溶解療法を実施しています。脳神経外科や放射線科との連携により、外科的治療や血管内治療の検討が速やかに行えるのが強みです。また、地域のリハビリ病院と連携し、回復期リハビリへとつなげています。

2. てんかん

原発性および症候性てんかんに対する薬物療法を行っています。入院は主に発作時の対応をしています。発作が重積している場合は、集中治療室で人工呼吸器管理が必要になることもあります。通院で病状が安定している場合には、長期処方が可能です。難治性てんかんに対しては、脳神経外科と連携し、外科的治療を検討することができます。

3. 神経変性疾患

パーキンソン病については主に外来で治療を行っていますが、内服調整目的の入院も行っています。誤嚥性肺炎などの合併症に対する治療、レスパイト、胃瘻造設を目的とした入院も受け入れています。

4. 神経感染症

高度救命救急センターの協力の下、髄膜炎、脳炎などの治療を行っています。

5. 免疫関連性中枢神経性疾患

多発性硬化症、視神経脊髄炎などに対し、免疫療法（ステロイドパルス療法、血液浄化療法など）を行っています。

6. 末梢神経障害

ギラン-バレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発神経根ニューロパチー（CIDP）などの入院加療を行っています。必要に応じて、長崎大学の協力の下、神経生検を実施しています。末梢神経伝導検査および針筋電図は他科依頼も含め、当科医師で実施しています。

7. 神経筋接合部疾患

重症筋無力症に対する免疫療法（ステロイド治療、血液浄化療法など）を行っています。胸腺摘出術が適応となる場合には、当院呼吸器外科に紹介しています。

8. 筋疾患

多発筋炎/皮膚筋炎、筋ジストロフィー、ミトコンドリア脳筋症などが対象です。必要に応じ、筋生検を実施しています。

第72回国立病院総合医学会

はじめに

第72回国立病院総合医学会が2018年11月9日～10日まで神戸国際展示場・会議場で開催されました。「多様性のなかに個が輝く」をテーマに楠岡国立病院機構理事長のオープニングリマークスから始まり、多くの特別講演、シンポジウム、口演、ワークショップ、ポスター発表が行われました。

11月9日には国立病院機構QC活動グループ最優秀賞事例発表が行われ、当院栄養管理室チームが発表した「食事改善～その食事、ちがうっちゃんない？」が全国最優秀賞を受賞しました。平成29

年9月から50回以上の会合を重ね成果も顕著でありました。おめでとうございます。

また、当院から日頃の研究成果など34演題が発表され、ベスト口演賞に5題、ベストポスター賞に3題が受賞しました。発表された皆様、応援の皆様お疲れ様でした。

発表後、神戸の町を散策された方も多かったのではないのでしょうか。私も旧友と再会し神戸牛を堪能しました。

事務部長 藤野 弘幸

1) 全国最優秀賞受賞報告

栄養管理室 中村 美咲

九州グループの代表としてQC活動報告を行い、全国最優秀賞をいただきました。

国立病院総合医学会という大きな場での発表は、私にとっては初めての経験でしたので、学会発表が決まった時は不安でいっぱいでした。しかし、学会前に院内でも何度か発表の機会を与えていただき練習を重ねられたことから、思いのほか緊張することなく本番に臨むことができました。学会発表にあたり、ご多忙の中ご指導いただきました皆様に改めて御礼申し上げます。

学会発表当日の夜に開催された懇親会の場においてQC活動の授賞式が行われ、楠岡理事長より表

彰していただきました。全国最優秀賞という栄誉ある賞に恥じぬよう、栄養管理室一同、今後も精進してまいります。



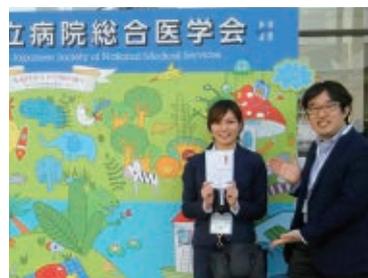
2) ベスト口演賞受賞報告

2年次研修医 畑山 絵里子

新生児・産科疾患のセッションで、「胎児診断し出生当日に手術できた左室大動脈トンネルの一例」というテーマで発表を行いました。思いがけずベスト口演賞をいただきとても誇らしく思います。左室大動脈トン

ネルとは、重症心不全を引き起こし早期治療が必要となりえる、100万人に1人の稀な先天性心疾患です。胎児エコーで救われる命があることを伝えられたら、との思いで発表しました。発表後、この疾患に興味を持たれた

他病院の先生にお声がけいただき、嬉しく思うと同時に学会発表することの意義を感じました。今回、このような機会を与えて下さった桑原先生、本村先生をはじめ、ご指導いただいた諸先生方には大変感謝しています。



3) ベスト口演賞受賞報告

統括診療部総合診療科 診療看護師 (JNP) 津野崎 絹代

看護—認定・専門看護師の活動のセッションで、「外来治療センターにおける診療看護師 (JNP) の介入効果 (中間報告)」について発表を行いました。4月～10月の6ヶ月間、で配属前の同期間と比較し、外来治療センターでの患者滞在時間 (救命センターに入院となった場合を含む) や看護師の超過勤務の短縮が図れていた点を評価いただき、ベスト口演賞をいただきましたことをご報告いたします。国立病院機構ではJNPの育成を推進していますが、まだまだ少ない職種であり、今後も客観的に活動を評価し、皆様から必要な職種と認めていただけるよう精進してまいりたいと思います。共同研究者であり、ご指導い

ただきました和泉先生をはじめとする先生方、ご協力いただきました外来治療センターのスタッフの方々に感謝いたします。

外来治療センターにおける 診療看護師 (JNP) の介入効果 —中間報告—

追跡可能であった外来診察待ち患者の比較

	2017年 N=640	2018年 N=862	p値 (<0.05)
外来診察待ち 患者平均	5.12件/日	6.95件/日 (1.83件↑□)	0.0002 *
滞在時間	2.83h/人	2.57h/人 (約15分↓□)	0.0053 *
診察待ち時間	1.3h	1.55h	0.2905

4) ベスト口演賞受賞報告

診療放射線技師 米丸 雄太

放射線治療の最新情報のセッションで、「電子線測定におけるR50の精度管理」というタイトルで発表を行いました。放射線治療装置から出力される電子線の精度管理において、当院が所有している高精度な精度管理装置と、ほとんどの施設が所有している簡易型の精度管理装置の比較を行い、簡易型の精度管理装置でも適切に精度管理を行うことができるという研究結果を評価していただき、ベスト口演賞を受賞することができました。ご指導いただきました池田主任、島本技師をはじめとした放射線部の皆様にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。本学会を通して、普段は話す機会の少ない様々な職種の方々や

全国の診療放射線技師の方々と交流できる良い機会になりました。今後も、日常診療のちょっとした疑問をもとに研究発表していきたいと思ひます。



剖検等御協力者慰霊祭

病理診断科部長 伊東 正博

平成30年11月14日に、4年ぶりの剖検等御協力者慰霊祭が、地域医療研修センターで執り行われました。今回は平成26年9月1日から30年8月31日の間に当院でお亡くなりなられ、剖検に協力頂いた66名の方々の慰霊祭になります。平日の午後にも関わらず21名の御遺族にご列席頂きました。黙祷、物故者奉読、祭司奉上のあと、御遺族と病院スタッフの献花が粛々で行われました。最後に江崎院長から剖検協力へのお礼の挨拶があり、閉会しました。

ウィリアム・オスラーの名言にあるように、医療が高度化した現代においても「医学は不確定のサイエンス」であり、病理解剖は真実を解き明かす貴重な手段になっています。剖検やCPCでは臨床経過で不明であった点の一つ一つ振り返り、真実を徹底的に追求し、新しい病態の発見に遭遇することも珍しくな

く、今後の日常診療だけでなく医学の発展に繋がっています。慰霊祭に参加し、あらためて剖検の意義、協力頂いたお遺族への感謝、主治医の熱意を感じました。



TOPICS

長崎大学形成外科難波賞を受賞して

形成外科医師 福井 季代子

このたび、高齢者の全身麻酔手術における合併症のリスク因子を検討した論文で難波賞をいただくことができました。難波賞とは、昭和35年に長崎大学形成外科診療班を立ち上げ、昭和54年に形成外科初代教授に就任、平成29年に亡くなられるまで形成外科の発展に尽力されました、故難波雄哉(なんばかつや)名誉教授の業績をたたえ、長崎大学形成外科同門会によって創設された賞です。難波先生は日本の形成外科の草分けとして、形成外科の発展に尽力されました。このたび、長崎医療センターで勤務させていただき、大変名誉ある賞を受賞できました。このような研究の機会を与えていただきましたことに感謝申し上げます。今後とも診療、研究にはげんでまいりたいと思います。



TOPICS

平成30年度九州・沖縄ブロック災害派遣医療チーム(DMAT)実動訓練に参加して

救急科医師 増田 太郎

初霜の候、11月10・11日の2日間、鹿児島県で九州・沖縄ブロックDMAT実動訓練が行われ、当院からDMAT 2隊で参加してきました。

初日は病院支援での患者搬送業務および、災害拠点病院での本部活動を行いました。準備段階として、活動場所に到着するまでの移動中に行う情報収集や、混乱した状況での病院の機能回復と維持がいかに大事か、痛感しました。

2日目は早朝から緊急消防援助隊との合同訓練に参加し、災害拠点病院の指揮所および外来診療部門に携わりました。消防隊が倒壊した家屋の中から傷病者を救出し、上空待機した防災ヘリを用いての救助訓練を行っている、臨場感あふれる現場へDMATを派遣したり、同時に多数の患者が搬入される中での搬送優先順位を決定したりしました。

災害時には訓練以上に情報が錯綜することが予想

され、各々が自分の役割を果たしながら、綿密なコミュニケーションを取る事が重要と、2日間の訓練を通じて改めて勉強しました。今後も訓練を通じてDMATとしてより一層の連携力強化に励んで参りたいと思います。



TOPICS

国際医療ボランティア報告～ミャンマーでJapan Heartに参加して～

2年次研修医 衛藤 祐樹

「早くライト照らしてや」。関西弁の吉岡医師の声が手術室に響き渡ります。私はこの秋、Japan HeartというNGO団体を通し、ミャンマーの病院でボランティア活動に参加しました。代表の吉岡医師は20年以上、無償でミャンマーやカンボジアなどで医療活動をされています。ミャンマーではお寺が運営する慈善病院を借り、普段は日本人スタッフや現地医師が外来メインの診療を行っていますが、月に1度opeミッションがあります。2室用い、5日間で80件以上の手術(15分～3時間/件)が行われました。手術代は大人は低額、小児は無料です。私は、外来、手術助手、麻酔、スタッフの食事を用意などをさせて頂きました。1日数分停電になるた

め皆で懐中電灯を照らしたり、泣きわめく子供をあやしたり、一丸となりミッションを終えました。文化や言語の違い、限られた医療資源という僻地医療との共通点などを感じることができました。日本で地力を付け、また伺いたいです。現地には日本人スタッフがおり、2、3日でも医療資格がなくても参加できるので皆様もぜひ。



ソフトボール大会に参加して

3A看護師 田 真治

今回ソフトボール大会で救命学院キャプテンを務めさせていただきました3A看護師の団です。今年初めての参加で、なかなかチームメンバーを揃えることができずギリギリの人数で本番に臨みました。また、4連覇中ということもありプレッシャーもありました。

最初は集まりも悪く人数が揃わずに、初戦は立ち上がり悪くあっけなく敗退してしまいました。しかし、遅れて他のメンバーが参加したことでチームの士気も上がり、一試合目は打って変わって攻撃も守備も好調でとんとん拍子で決勝まで進むことが出来ました。

特に、今年移動して来られたARTKさんはもともとソフトボール経験者ということもあり試合では大活躍でした。病棟で働いている時と雰囲気の違い、とても活き

活していました。

また、3A男性陣は運動神経もよく試合では大活躍でした。中道先生は今回参加できませんでしたが、皆のおかげで優勝することが出来ました。来年も優勝目指して頑張りたいと思います。



TOPICS

平成30年度長崎医療センター忘年会

平成最後の長崎医療センター忘年会を12月14日(金)に開催いたしました。本年度素晴らしい功績を上げた方々への表彰、楽しい余興で、大盛況の忘年会となりました。



学術奨励賞 表彰

	受賞者	タイトル
1	岡本 渉大 (初期研修医) (現長崎県上五島病院)	Dynamics of hepatitis B virus serum markers in an acute hepatitis B patient in the incubation phase. Clinical Journal of Gastroenterology. (Accept 2018.11.14)
2	福井 季代子 (形成外科医師)	Risk Factors for Postoperative Complications among the Elderly after Plastic Surgery Procedures Performed under General Anesthesia. Plastic Surgery International. Volume 2018, Article ID 7053839, 5 pages.
3	原 健太朗 (手術センター看護師)	胸腔鏡下食道切除術における術前腹臥位シミュレーションの効果の検討 日本内視鏡外科学会雑誌 23(3):305-312, 2018.05.

功労賞 表彰 【団体部門】

	グループ名	代表受賞者
1	食事で付度し隊	中村 美咲 (栄養管理室)
2	管理課環境整備作業隊	岩崎 貴 (管理課庶務係)
3	総合情報センター	山崎 一美 (情報管理室長)



医療 雑感

COVER IMAGE, beyond acceptance

臨床疫学研究室長 山崎 一美

平成30年6月、Journal of Medical Virology (JMV) にアクセプトされた私の論文のfigureが、JMV12月号の「表紙」になりました。

<https://onlinelibrary.wiley.com/toc/10969071/2018/90/12>



医学雑誌の表紙に選ばれることなど一生ないと思っていましたので、“cover invitation”と題したメールが届いたときはフィッシングだと思い迷惑メールに振り分けようと思ったほどです。

表紙に掲載されたグラフは、マルコフモデルによるB型肝炎の病態移行推移を示しています。B型肝炎は主に母児間感染でキャリアとなり、その後の

病態は時間とともに複雑に移行します。肝硬変・肝がんに進展することはよく知られていますが、HBs抗原が血中から自然消失することもあります。これに抗ウイルス剤が介入すると複雑さは極まります。複雑な病態推移をよりシンプルに示すため、広島大学の田中純子教授と一緒にマルコフモデルを用いて分析した仕事です。

マルコフモデルとは、不規則に変化する病態をモデル化するため推移確率を算出し表現されます。未来の状態は現在の状態のみに左右され、過去に起きた事象には影響されないと仮定します(マルコフ性といいます。女性の恋みたいですね)。この仮定によって、他のアルゴリズムでは扱えないモデルに論拠と計算結果を与えることができるというわけです(ウィキペディア)。よくわかりませんね! 実際、難解なこともあり、この論文の査読者がなかなか見つからず、4ヶ月かかったとエディターのコメントがありました。算出法は難解でも、表紙になったこの図はB型肝炎の病態経過をすっきりと示しています。今後多くの臨床家に有用になると期待しています。

この研究は長崎県の離島で1978年から始まりました。1978年、私は中学生で、HBs抗原という単語をまだ知りません。この研究を始めたのは、1970年代矢野右人名誉院長とともに当院で肝炎診療をされた白濱敏先生(上五島病院名誉院長)です。現在は、長崎県医学修学生・自治医大卒業生たちが、当院で初期研修を終えた後、赴任地でこの研究を引き継いでいます。研究成果から得られた新しい知識を頭に入れ、患者さんの診療をしています。離島にいても患者さんがいるかぎり研究と臨床の関係を実感することは難しくありません。

看護部だより Vol. 7

第6回幹部看護師研修を開催！！

教育担当係長 稲田 有里

平成30年11月26日(月)～30日(金)の5日間、長崎県内の次世代の看護管理者を対象として、第6回幹部看護師研修を開催し、県内の13施設から22名の方に参加いただきました。研修は、「看護管理概論」「人を育てるためのマネジメント」「グループマネジメント」「看護人事・労務管理」「安全管理・クオリティマネジメント」の5つのテーマに沿って、講義とグループワークを行い、互いの施設の情報共有を図りながら、自ら考え学ぶ形式をとりました。グループワークでは、研修生から活発な発言があり、有意義な意見交換ができていましたので、それぞれの施設に戻られて実践に役立てていただけることと期待しております。

研修の企画・運営を担った私たち看護師長も、数ヶ月前から準備を重ねたことで、学び多い研修となりました。この研修が、各施設の看護の質向上の一助となりましたら幸いです。

《研修修了証授与》



《看護師長からの講義》



《グループの意見を発表》



《グループワーク》

TOPICS

新任医師紹介



産婦人科レジデント
三好 康広

お久しぶりです。アフリカのザンビアから2年8ヶ月ぶりに戻って参りました。これから1年間お世話になります。産婦人科6ヶ月、麻酔科

3ヶ月、新生児科3ヶ月の再研修をさせていただく予定です。ここでの学びをまたアフリカに戻って活かしたいと思っております。科は関係なく、色々なことを学びたいと考えており、多くの先生方のご指導を仰ぐことになるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

第12回長崎医療センター“健康フェスタ”予告

長崎医療センター恒例の健康フェスタを平成31年3月2日(土)に開催致します。

体験コーナー、測定コーナー、ミニ講座など、健康について一般の方々にもっと知って頂ける講座やイベントを企画しております。

長崎医療センターの“ゆるきゃら：ヘリドッグ太”も皆さまのご参加をお待ちしております。



医療センター講演・研修・テレビ出演等(1月)

(敬称略)

がん化学療法セミナー

開催日	時間	開催場所	内容	講師
1月9日(休)	18:00~19:30	臨床研究センター会議室	免疫チェックポイント阻害剤 抗がん剤の適正使用の取組み(オプジーボ)	がん化学療法看護認定看護師:富永美希 がん薬物療法認定薬剤師:金澤絵莉

これらの講演は、地域の医療従事者の皆様に開放しています。詳細は病院のホームページをご参照下さい。 <http://www.nagasaki-mc.jp/pages/205/>

地域医療連携室 からの お知らせ

入院患者さんへの案内

当院では、患者さんへ安心して退院していただくための取り組みの一環として、各病棟に選任の「退院支援担当者」を配置しています。

退院支援担当者とは

退院後の心配事や社会資源の活用など
患者さん、及びその家族と一緒に考え、
退院後の生活を整える支援をしています。

退院支援担当者の業務内容

- ・入院患者さんの転院支援・退院支援
- ・在宅療養を必要とする患者さんの支援
- ・かかりつけ医療機関の案内
- ・他医療機関への紹介患者の情報提供
- ・介護保険に関する相談
- ・その他退院後の生活に関する相談

SENSAIごはん



長崎医療センター監修
“極旨香だし”使用

和風 ロールキャベツ

温かい料理を食べて、
寒い冬を
乗り越えよう!!!



材料（4皿分）

- 豚ひき肉 200g
- キャベツ 8枚
- 玉ねぎ 1個
- ○卵 1個
- ○酒 小さじ1杯
- ○醤油 小さじ1/2杯
- ○塩コショウ 少々
- ○片栗粉 小さじ1杯
- ●極旨香だし 500ml
- ●酒 大さじ1杯
- ●醤油 大さじ1と1/2杯
- ☆しめじ 適量
- ☆人参 適量
- ☆ブロッコリー 適量

作り方

- ① キャベツは沸騰した湯で軽くゆで、玉ねぎはみじん切りにする。
- ② 豚ひき肉とみじん切りにした玉ねぎ、○の調味料をボールに入れ粘りがでるまでよく混ぜる。
- ③ キャベツの上に②をのせて、巻く。
- ④ ●の材料を鍋にかけ、沸騰したら③のロールキャベツを入れて弱火で20分程度煮込む。
- ⑤ ☆の食材は下ゆでしておき、好みに合わせてトッピングを行う。

管理栄養士 原田より



日に日に寒くなり、朝夕冷たい風が身にしみる季節となりました。今年度は長崎医療センター監修の「極旨香だしを使用したレシピ」をテーマに紹介してまいりました。和風から洋風までさまざまな料理に使用できます。長崎県民は塩分摂取量が多いと言われておりますので、だしを使用して減塩を心がけましょう。

理念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実にを行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- 絶対には断らない救急医療の最後の砦となる気概を持つ
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 臨床研究を推進し、国際医療協力を貢献する